

北海道 PCB 処理事業所 内部技術評価結果について

中間貯蔵・環境安全事業株式会社では、PCB 廃棄物処理事業の円滑な実施のため、PCB 廃棄物の安全、確実な処理及び事故等の未然防止の観点から、処理施設の健全性及び運転・操業の確実性の確保と、これらの維持向上を図るため、「内部技術評価実施要領」を定め、全 PCB 処理事業所（以下、PCB 処理事業所を「事業所」という。）を対象に、各事業所年 1 回の内部技術評価を実施することとしている。

北海道 PCB 処理事業所については、昨年 11 月に第 16 回内部技術評価を実施したが、指摘事項はなく、PCB 廃棄物処理事業の終盤を迎えて着実に操業が行われていること、また、処理施設の解体・撤去についても種々調査・検討や関係者との情報共有が進められていることを確認した。

以下に、令和 5 年度の内部技術評価の結果を報告する。

1. 内部技術評価の仕組み

内部技術評価の実施フローは、別紙 1「内部技術評価実施フロー」に示す通りであり、PDCA サイクルを回すことにより、更なる改善に向けて、随時継続的な見直しを行いながら実施している。

2. 内部技術評価の計画

(1) 評価対象事業所

北海道 PCB 処理事業所

(2) 評価対象期間

令和 4 年 9 月 1 日 ～ 令和 5 年 8 月 31 日

(3) 評価項目の設定

1) 内部技術評価の実施に当たっては、既に実施した各事業所の内部技術評価結果、行動計画、予算、各事業所における操業上の共通課題や内部技術評価に対する経営幹部会議、事業部会、作業安全衛生部会等からの指導事項等を考慮して、予め評価項目と評価内容を記載した「内部技術評価チェックリスト」（以下「チェックリスト」という。）を作成し、同チェックリストを基に評価を行っている。

2) 令和 5 年度の内部技術評価は、全事業所共通で、

- ①. 営業物の処理完了に向けて計画通りに処理が進んでいるか。また、運転廃棄物や処理施設の解体・撤去（準備作業を含む。）に伴って発生する廃棄物の処理も含めた設備の稼働計画が作成され、計画に沿った操業が実施されているか
- ②. 処理施設の解体撤去段階での使用を含め、夫々の設備の最終稼働時期を考慮した長期保全計画に基づく年度保全計画通りに保全が実施されているか
- ③. 運転廃棄物及び処理施設解体・撤去物の処理計画（ここで、「処理」とは、「卒業若しくは低濃度化(*1)」及び「事業所間移動による処理」を言う。）と

処理実績はどのようになっているか

(*1)：無害化処理認定施設への処理委託可能濃度。

④. 処理施設の解体・撤去に係る体制の整備状況と処理施設解体・撤去の進捗状況はどのようになっているか

の4項目に重点を置いて評価を行った。

3) 今回の内部技術評価における評価項目を別紙2「第16回北海道PCB処理事業所内部技術評価 評価項目一覧表」に示す。

3. 内部技術評価の実施

(1) 評価実施日

令和5年11月16日(木)～令和5年11月17日(金)

(2) 評価方法と評価区分

1) 評価方法

前述のチェックリストに基づき、北海道PCB処理事業所関係者にヒアリングを行い、関連図書・資料類によりその内容を確認する方法で処理施設の操業状況の確認を行った。

2) 評価区分

「内部技術評価実施要領」の規定に基づく評価区分を下表に示す。

評価区分	評価内容
適合	各評価項目について、処理性能等に適合している場合に付する。
指摘	各評価項目について、PCB廃棄物の安全、確実な処理及び事故等の未然防止の観点から技術評価対象事業所に対して改善を指示する場合に付する。
所見	各適合項目について、処理性能等の改善のための意見並びに特記すべき事項等がある場合に付することができる。

(3) 評価結果

1) 今回の内部技術評価結果について、前述の重点評価項目に対する評価を中心に、その概要を以下に示す。

①. 処理施設の操業状況については、事業終了準備期間での営業物の処理継続や運転廃棄物の処理等に向けて、保管中の不要旧品の処理も考慮した設備稼働計画が作成され、計画的に処理が進められていることを確認した。

②. 設備の保全状況については、後述(④)の理由から、処理施設の解体・撤去の開始時期が見通せないため、営業物や運転廃棄物の処理等を中心に長期保全計画が作成され、それに基づく年度保全計画通りに保全が実施されていることを確認した。

③. 運転廃棄物の処理状況については、事業終了準備期間(令和8年3月31日まで)内での処理完了に向けて、東京事業所からの事業所間移動による処理受託品を含む長期処理計画が作成され、内部技術評価実施時点では無害化処理認定施設への処理委託を含めて概ね計画通りに処理が進められているこ

とを確認した。

- ④. 処理施設の解体・撤去については、北海道事業所は他事業所とは異なり、内部技術評価実施時点では具体的な議論は行われていないが、将来的に具体的な議論が必要になった場合に備えてワーキンググループが設置されており、諸課題の調査・整理、本社・他事業所等との情報共有等が行われ、又、「PCB付着状況調査」等の基礎調査が実施されていることを確認した。

2) 今回の内部技術評価では、評価項目数 81 項目について評価を行い、評価結果は以下の通りであった。

- ①. 指摘事項：なし
- ②. 適合事項：81 項目（内、1 項目に所見を付した。）

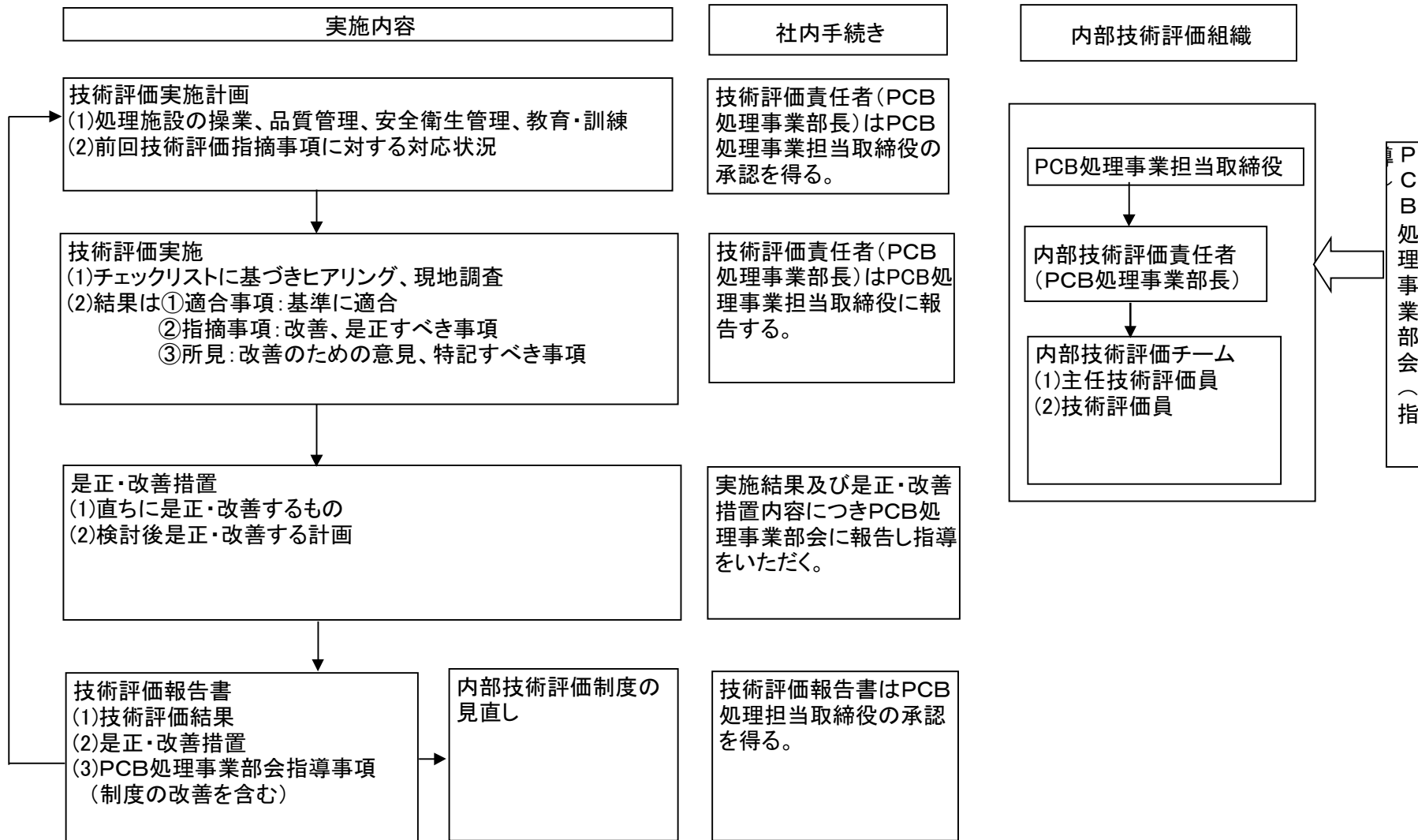
なお、前回の内部技術評価における指摘事項はなく、また、所見 2 件の内の良好事例 1 件を除く 1 件についても適切に対応されていることを確認した。

3) 前回の内部技術評価における所見 2 件に対する対応状況を含めて、評価結果を「別紙」に示す。

以上

指摘事項	なし
所見	<p><所見 1 ></p> <p>評価項目：全般</p> <p>◎ 令和7年度までの営業物の処理が予定されているが、処理手間物の処理を始めとして操業開始以来の知見を活かして、また、様々な形で試行錯誤を繰り返しながら当初目標としていた PCB 廃棄物(営業物)の処理をほぼ達成するまでに進捗出来たことは、これまでの PCB 廃棄物(営業物)の処理完遂に向けた事業所を挙げての取り組みの成果として評価するが、令和 5 年 10 月 20(金)に発生したトラブルは人的要因が大きく、これまで築き上げて来た信頼を大きく損ねる結果ともなり兼ねないため、今後このようなトラブルが発生しない様に作業員への十分な教育を含めて、再発防止対策の徹底をお願いしたい。</p>
前回所見に対する対応状況の確認結果	<p><前回所見 1 ></p> <p>評価項目No.1-2：処理状況</p> <p>◎ 本年 8 月に「福島県対策地域内高濃度 PCB 廃棄物」の処理を実施しているが、計画段階から環境省・地元行政等との連絡を密にし、これまでに経験のない測定項目や各種予定の変更にも対応しながら、特に問題もなく処理を完了したことを良好事例として評価する。</p> <p>(対応状況)</p> <p>◎ 良好事例のため、対応状況の報告は不要としている。(事務局)</p> <p><前回所見 2 ></p> <p>評価項目No.2-4：設備保全</p> <p>◎ PCB 廃棄物処理事業も終盤を迎え、営業物の処理量も減少しているが、環境省の要請に対する地元回答として営業物の処理が令和 7 年度末までとされたこと、営業物以外にも運転廃棄物等の処理も必要なことから、これらの処理に支障を生じない様に各設備の処理性能の維持・管理に向けた対応をお願いしたい。</p> <p>(対応状況)</p> <p>◎ 令和7年度末までの営業物及び運転廃棄物等の安全・安定且つ確実な処理の確保に向けた取り組み状況について、以下の回答があった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 営業部、事業部とのミーティング等による令和7年度末までの処理計画の策定 2. その他汚染物及び運転廃棄物の処理促進に向けた溶融缶作製能力の増強 3. 処理計画に基づく各設備の稼働終了時期と解体撤去スケジュールの調整 4. これらを踏まえた各設備の処理性能の維持・管理のための保全計画の策定

<内部技術評価実施フロー>



第 16 回北海道 PCB 処理事業所内部技術評価 評価項目一覧表

評価項目	評価 項目数
1. 操業管理	41
1-1 操業管理体制	1
1-2 処理状況	1
1-3 マニフェスト管理状況	1
1-4 処理物保管量	1
1-5 PCB 処理量と PCB 保管量	1
1-6 処理施設稼働状況	1
1-7～1-9 処理性能	3
1-10 処理原単位	1
1-11 運転廃棄物	1
1-12～1-38 設備稼働状況と操業管理状況	27
1-39 改善実施状況	1
1-40 操業管理規程類及び作業手順書等の管理状況	1
1-41 施設解体・撤去の進捗状況	1
2. 設備管理	8
2-1 設備保全管理体制	1
2-2 設備保全管理基準	1
2-3 設備点検	1
2-4 設備保全	1
2-5 設備保全における安全管理体制	1
2-6 設備管理	1
2-7 設計図書等の管理状況	1
2-8 設備トラブル発生時の対応	1
3. 環境管理	4
3-1 環境要件の遵守状況	1
3-2 環境モニタリング装置管理状況	1
3-3 管理区域の負圧管理状況	1
3-4 漏洩・流出防止対策と管理状況	1
4. 安全衛生管理	11
4-1 安全衛生管理規程	1
4-2 安全衛生管理計画と活動状況	1
4-3 安全衛生協議会	1
4-4 安全パトロール	1
4-5 作業環境管理状況	1
4-6 作業従事者の安全衛生管理状況	1
4-7 作業環境異常時の対応	1

評価項目	評価 項目数
4-8 作業環境異常時の対策実施状況	1
4-9 保護具の管理状況	1
4-10 隔離エリア（グローブボックス等）の管理状況	1
4-11 管理エリア内作業の管理状況	1
5. 適法性	6
5-1 法改正に伴う対応	1
5-2 作業手順等の周知徹底と実施状況	1
5-3 始業前設備点検・記録と実施状況	1
5-4 作業計画・作業指示の周知徹底と実施状況	1
5-5 危険性または有害性等の調査検討（リスクアセスメント等、S A委員会）及び対策の実施状況	1
5-6 地域との協定等の遵守の状況、情報公開、地域とのコミュニケ ーション	1
6. 環境安全異常事態等発生時の対応	5
6-1 環境安全異常事態等発生時の対応体制	1
6-2 環境安全異常事態等発生時の事業所の防災機能と対応能力	1
6-3 火災・爆発（発生の恐れがある場合を含む）及び自然災害の事 例と対策	1
6-4 環境安全異常事態等発生時の外部対応事例	1
6-5 他事業所の環境安全異常事態の水平展開	1
7. 教育・訓練	6
7-1 教育・訓練計画と実施状況	1
7-2 所員（J E S C O / 運転会社）の新規採用者の教育・訓練	1
7-3 入構者（工事作業員等）の入構者安全教育	1
7-4 運転会社作業員の技術教育、技術評価	1
7-5 環境安全異常事態等の発生時を想定した対応教育・訓練	1
7-6 オンラインモニタリング異常発生時の対応教育・訓練	1
8. 前回の内部技術評価等で改善を指摘された事項の改善状況	0
8-1 指摘事項の改善実施状況	0
合計	81